

会 議 等 報 告 書

係 員	係 長	課長補佐	課 長	部 長	教育長	副市長	市 長	決定区分
合 議	(教育総務課長)	(学校教育課長)	(生涯学習課長)	(文化課長・企画監)	(教育部長)			
報 告 者	<p style="text-align: center;">令和2年2月20日</p> <p style="text-align: center;">企画部 秘書広報課 秘書係 職名 係長 氏名 馬奈木 雄史 印</p>							
1 会議等名	令和元年度 第1回総合教育会議							
2 開催日時	令和2年2月20日(木) 11時00分～12時00分							
3 開催場所	糸島市役所本館3階 庁議室							
4 出席者	別添「出席者名簿」のとおり ※傍聴人：2名							
5 協議事項	<p>1 開会</p> <p>2 議事録署名構成員の指名 ・松尾 実恵 氏を指名する。 (異議なし)</p> <p>3 経過報告 ・事務局から説明 (質問、意見等なし)</p> <p>4 協議・調整事項 (1) 令和2年度の主な取組について ・事務局から説明 [主な質問・意見] ■月形市長 「いとしま学」の今後の取組について、皆様からご意見をいただきたい。 まずは、これまでの取組で得られた成果について、担当から報告をさせたい。 (田中学校教育課長から、資料に基づき説明)</p>							

■西委員

糸島が、いかに歴史豊かで自然に恵まれているかを知っていただくきっかけとなる。ぜひ、子どもだけでなく、大人の方にも広く知ってもらいたい。そうした意味で、副読本やDVDを作成して取組を進めてこられた成果は出てきているのではないかと思う。先日、県の教育委員会会議に出席した際、教育委員の皆さんにも「いとしま学」は好評で、「副読本を譲ってほしい」と言われるほど、高い評価をいただいた。

■月形市長

大変ありがたいご意見である。これからも前向きに取り組んでいきたい。

■古川委員

子どもたちは「いとしま学」を直接学んでいるが、地域の人たちがどこまで把握し、理解しておられるのかが見えてこない。

例えば、市内の図書館で自由に閲覧することはできるのか。

◇岡部文化課長

市内の各図書館に複数副読本を配架しており、いつでも閲覧できるようになっているほか、市立公民館全館にも配架して来館者に読んでいただけるようになっている。

◇田中学校教育課長

元々いとしま学は、授業だけでなく、家庭で保護者と学ぶことをコンセプトとして作成しており、郷土のことを学んでいただくきっかけとなるよう、家庭や地域に広げていきたいと考えている。

現在も、興味がある方はイベントに参加されているが、もっとアピールをしていきたいと考えている。

◇中庭生涯学習課長

生涯学習分野では、「大人のためのいとしま学」を市の出前講座メニューに取り入れており、多くの方に受講していただいている。平成30年度は12件、平成31年度は13件の申し込みがなされており、人数にすると、年間100人から200人が受講されている。子どもたちが学んでいるテキストを使って大人の方にも学んでいただくことで、家庭や地域でも一緒の目線で郷土について学ぶことができるよう、生涯学習として取り組んでいる。

◇角文化課企画監

歴史・文化がいとしま学の大きな柱になっているが、この分野については博物館で対応しており、平成28年度から、春季企画展でいとしま学の内容に即した展示を行っている。テキストのイラストを交えながら、関連する収蔵品の展示を行い、一般の来館者や「いとしま学」を学ぶ子どもたちの授業に使ってもらっている。

また、平成29年度からは「博物館で学ぶいとしま学講座」を実施している。博物館の学芸員が講師となり、いとしま学のテキストを用いた講座を行うもので、約30人の受講者を対象に、年間10回程度開催している。

今後の展開としては、学校と連携した更なる活用を目指したいと考えている。人材の配置も含め、やり方を検討していきたい。

■松尾委員

地域の歴史がこうして教材になるのは素晴らしいことであり、それを基に子どもたちに郷土の歴史を学ばせるのは画期的であると思う。

これからは文科省が進めているように IT 化も進むため、いとしま学をデジタル化して、1 台の端末から学習が広がるようにしていただきたい。自分の生まれ育った地域の歴史を学ぶだけでなく、どこでも誰にでも見てもらうことができる。

糸島独自の教育がテクノロジーと一体となることで、さらに素晴らしい教材となる。ぜひ続けていただきたい。

■月形市長

ご意見のように、糸島にいらなくても、どこでも本市の歴史にふれていただくことができるのは素晴らしいことである。今後、ぜひ研究させていただきたい。

■宗委員

いとしま学の出前講座について、参加された方からの意見や感想は、どのように生かされているのか。

◇中庭生涯学習課長

この講座は、出前講座の中では大変好評をいただいている。高齢の方の受講が多く、受講者からは、いとしま学を通して糸島のことを再認識することができたとの声が寄せられている。保護者の方からも「子どもと同じことを学んで、親子で糸島を知る良いきっかけになった」など高い評価をいただいている。

また、テキストが総合的な内容になっていることから、「もっと分野を絞って詳しく知りたい」との声もあり、これに応えるため、受講の際に詳しく知りたい分野を指定していただければ、その分野に特化した講座を行うようにした。

■宗委員

こうして学ぶ機会があるのは大変ありがたい。今後も広く周知をしてもらいたい。

■月形市長

実施回数も受講者も多く人気の講座になっているとのことで、大変うれしく思う。

■中庭生涯学習課長

受講者はさらに増えており、今年度は 400 人を超える見込みになっている。

■月形市長

子どもたちだけでなく、一般の方にもこうして高い評価をいただいていることは、この取組の成果であり、非常にありがたい。

今後、取組を続けていく上で、先ほど意見をいただいたデジタル化についても、課題となってくる。

■松尾委員

現在、いとしま学は糸島市民だけを対象としているが、デジタル化が進めば、国内に留まらず、世界中の人にも糸島を知っていただくことができるし、こうした教育が行われていることの PR にもなる。

このテキストは素晴らしい教材であり、クオリティも非常に高い。また、糸島がそれを作りあげるだけの素材に恵まれていることを示しており、そこで生まれ育った子どもたちのアイデンティティの醸成につながるものである。

また、こうした教材は外国人にも好まれる。外からの評価は貴重であり、日本だけでなく海外へも広く発信したほうがよいと思う。

■古川委員

デジタル化したものをどうやって発信するかが課題になると思う。

■松尾委員

最近、若者はテレビではなく、主に youtube やネットフリックスなどインターネット上の動画を観ている。まだ先の話になるので、その時点で皆さんが視聴しているものを取り入れて広報していくことが必要になってくる。

■家宇治教育長

次の段階として、観光振興の分野など幅広い取組が必要になってくるが、教育委員会で必要な取組は「情報の集積」である。国から GIGA スクール構想が示されているが、これからは、子どもたちが自由に検索して知ることができる環境を作り上げなければならない。

そうした意味で、この冊子は、目次の役割を果たすようになって考えている。

また、これは何年も掛けて行う取組ではなく、短時間で作り上げなければならない。

現段階の構想について、担当から説明をお願いしたい。

■田中学校教育課長

現在、「DVD 版いとしま学」を市ホームページに掲載し、電子書籍も公開しており、今後、広がりを持たせる取組が必要であると考えている。

学習発表会の一部で保護者等にいとしま学を知ってもらう機会を作っているが、今後、家庭でも、ネット上で検索キーワードを入れればすぐに見ることができるようにするなど、工夫をしていきたいと考えている。

■西委員

若い人はインターネットなどで情報を得ているが、年齢が高い方はテレビからの影響が大きい。地元のテレビで PR をすれば、糸島市内だけでなく、福岡都市圏でかなりの大人を引き付けることができると思う。

■月形市長

ご高齢の方などパソコンを使わない方へのアプローチも考える必要がある。

■松尾委員

まずは子どもたちに知識を付けてもらい、家庭での会話を通して子どもたちから発信してもらおうのが一つの形になる。家庭での話題づくりを行うためにも、学校の授業参観などを通して周知を進めてもらおうとよいと思う。

■西委員

いとしま学のテキストの良い所は、小学校版と中学校版で内容を変えている点にあると感じている。

例えば、小学生版はイラストが多く、糸島の良さを分かりやすく書いてあるし、中学生版では、歴史的な話や産業の紹介などが入ってくるなど、それぞれに魅力的なつくりになっている。これを見ると大人も勉強したいと感じる。

■月形市長

本市では、市制施行 10 周年記念事業の一環で「糸島の偉人」を紹介していくこととしている。糸島で活躍してきた人々を子どもたちに知ってもらうことも必要だと考えているが、いとしま学とタイアップさせることはできるだろうか。

■家宇治教育長

糸島の偉人については、道徳の授業で資料として採用したいと考えている。いとしま学だけが幅広くならないよう、別枠でも学ぶ機会を作っていきたい。

◇田中学校教育課長

いとしま学の改訂に向けて、検討委員会を立ち上げて協議を進めているが、その中でも糸島の偉人を紹介していくべきとの意見をいただいている。多くを盛り込むことはできないが、一部紹介することは可能であると考えている。

◇馬場企画部長

糸島の偉人については、企画部の所管で委員会を立ち上げ、選考を進めている。

3月末には確定させ、新年度以降、市の広報やホームページで一人ずつ紹介していく予定であるが、教育部と調整を進め、子どもたちにも紹介できるようにしたい。

■月形市長

次に、「GIGA スクール構想」について、皆様からご意見をいただきたい。

まずは、担当から現在の状況等について説明をお願いしたい。

(田中学校教育課長から、資料に基づき説明)

◇馬場企画部長

インフラ整備について、市内には光回線の未整備地域があり課題となっているが、今年度中に、怡土校区、福吉校区で整備を行うこととしており、あとは姫島が残っている状況である。

◇田中学校教育課長

姫島については敷設が難しいため、LTE で個別に対応させていただくこととしている。

■月形市長

指導者については、どのように考えているか。

◇田中学校教育課長

今後、早急に市で情報化教育推進検討協議会を立ち上げて、今後どのような内容を盛り込んでいくか、指導者をどうするかなど、検討を進めたいと考えている。

これまでも、例えば平成 27 年度から 29 年度まで前原中学校で ICT 教育の研究を進めてきた実績もあり、教員も全く使えないというわけではない。

今後は各児童生徒に一台整備し、1日に1~2時間使えるようになるため、より幅広く活用できるように、各学校から詳しいものを集めて勉強会を開きながら、今後の進め方を考えていきたい。

■家宇治教育長

教員のみだけでは限られてくる可能性があるため、コーディネーター的な役割を担う人材を情報通信産業分野の企業と契約して、週に1、2回などの頻度で派遣してもらうなど、人員の配置を検討している。

■西委員

先生を指導する専門家が必要であり、どう確保するかが課題である。

コミュニティスクールができたので、地域によっては、例えば専門の企業で働いてリタイアされた方などが人材としておられるかもしれない。

いずれにしても、先生が自信をもって指導できるような環境を作ることが大事である。

■松尾委員

九州大学の情報工学科の生徒に来ていただくことも検討してもらえればと思う。

また、不登校対策には非常に良いのではないかと感じている。

学校に行けなくなる要因として、学習の遅れも挙げられているが、これを ICT 化によって解消できればと思う。居場所をつくり、端末を使って自分のスピードに合った学習ができれば、遅れも取り戻せるし、機器の使い方も学ぶことができる。

また、先生方の働き方改革にもつながるのではないかなと思う。

◇田中学校教育課長

ご意見のとおり、一人一台になると、可能性も大きく広がると考えている。

教室で行っている一斉授業と比べ、子どもたちの学習スピード、状況によって個別に進めて行けるという面において、ICT の活用は効果があるので、参考にしていきたいと考えている。

■家宇治教育長

授業だけで使うのではなく、様々な分野で活用していけるよう検討を進めたい。

■月形市長

大きな投資を行っているので、授業だけでなく、ぜひ幅広く使っていただきたい。

導入部分には国の支援もあるが、この先の負担がどうなるか心配している。国と折衝しながら継続をしていきたい。

■古川委員

一人一台の整備を進めているとのことだが、学校内だけでなく、家庭への持ち帰りもできるようになるのか。

◇田中学校教育課長

持ち帰りの可否の他にも、端末の機種や中身、安全な使い方などを含め、検討委員会の中で協議していきたいと考えている。

例えば、学校では Wi-Fi に接続して使用するが、これを家庭でも接続させるのかなど、クリアしなければならない問題もある。

■家宇治教育長

国は、導入するための初回の整備には補助するが、今後どうするかは不透明とのこと。端末機については、今後、学校備え付けにするのか、または、保護者に負担していただき体操服のような取り扱いになるのか、あるいは、スマートフォンに置き換わっていくのかなど、数年で大きな動きがあるのではないかと考えている。

この数年間、どのように活用していくか、しっかり検討していきたい。

■月形市長

GIGA スクール構想については、まったく新しい試みであるので、今後も様々な課題が出てくると思う。教育委員会の中でも、しっかりと検討を進めていただきたい。

(2) その他

■西委員

先日、「糸島フィルハーモニー管弦楽団」の第 1 回目となる定期演奏会が行われた。

満員の伊都文化会館で 80 人の大楽団が演奏されたが、プロ級の大変素晴らしい演奏会だった。他にはそうないものだと思う。これからも続くとのことであるが、こうした芸術文化を持つことは、まちづくりの進化につながり、市民の誇りを生み出す。糸島の魅力を高めるためにも、ぜひこうした文化を育てていただきたいと思う。

	<p>■月形市長 新しい文化が生まれ根付いてきていると感じている。行政としてどう支援していけるか考えていきたいと思う。</p> <p>■月形市長 次に、教育関連予算について、報告をさせていただく。 本市にふるさと応援寄附を行っていただく際、その用途を指定することができるが、昨年度までは、特に指定がなければ新駅の駅舎整備に使わせていただいていた。 これを、今年度からは教育関係予算に回すこととしている。 金額等、詳細について、担当の企画部長から説明させたい。</p> <p>■馬場企画部長 市長からの指示により、寄附金の用途として「その他市長が特に必要と認めた事業」をご指定いただいたものは、すべて教育関連予算に回すこととしている。 例えば、令和2年度には、小中学校で一人一台整備する端末の市負担部分、約4,800万円を含め、3億1千万円程度を教育関連予算に充当することとしている。 割合にすれば、寄附金のうち62～63%を教育関連予算に充てることになる。 なお、今年度は、寄附の見込みを5億円程度と考えて予算を組んでいたが、年度末にはこれが7億円近くまで伸びる見込みになっており、来年度も同規模を想定している。 先ほど、小中学校の端末更新費用について話が出ていたが、今後、4、5年すれば、更新が必要となる。ふるさと応援寄附金の活用も含め、財源の確保を検討していきたい。</p> <p>■月形市長 計画的な校舎の大規模改修などに加え、こうした突発的な負担も発生する。皆さんから寄せられた浄財であるので、大切にに使わせていただきたいと考えている。</p>
6 決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録署名構成員を松尾実恵氏とする。 ・次回開催日程及び案件は、後日通知する。
7 懸案事項	特になし

糸島市総合教育会議規則第9条第3項の規定に基づき、ここに署名する。

(糸島市長)

(議事録署名構成員)